採択 平成29年度 文部科学省 高度専門職業人養成機能強化促進委託事業

令和元年度　認定　大学院発　文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）

関西学院大学ビジネススクール（MBA）に連動したプログラム

第5期 MICE・地方観光人材育成プログラム
～持続的な発展を目指して

2023年
10月開講

ウィズコロナ時代の
持続可能な地域振興を目指す
新たなサービス経営人材の育成

関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

関西学院大学専門職大学院
経営戦略研究科教授
山本 昭二

プログラム開催にあたって

皆さんが将来の観光業を考える際に、その発展に大きな期待を持っている方も多いでしょう。グローバルで自由な移動、また安価で安全な移動が保証されたことで、世界規模で移動や宿泊に関する需要は増え続け、日本ではインバウンド顧客への期待が高まっていました。残念ながら2020年以降、コロナウイルスの感染拡大で3年にわたり、人々の行動には制限が掛かりました。多くの犠牲者を出しながら、我が国では2023年5月以降、コロナウイルスの扱いが変更になり、コロナ以前に戻りつつあります。この間の経験を活かして観光業全般に改革の機運が生まれているのではと思います。インバウンド顧客の復活に伴って本格的な観光立国への道筋も見え始めています。

本プログラムは、MICEを含めた幅広い集客手法を駆使して生産性を高め、成長性のある観光地を作っていく人材を育成していきます。観光とサービスに関する基本的な知識から実践的な知識まで、観光産業の経営に役立つ幅広い知識の習得が可能なプログラムとなっています。また、一部科目はビジネススクールの科目と連動しており、修得した単位はビジネススクール入学後に修了単位として算入されます。さらなる学びを求める方には魅力的な仕組みとなっています。このプログラムに参加し、是非新たな学びにチャレンジしてみてください。

株式会社ポートピアホテル
代表取締役社長
中内 仁

新しい学びの機会

宿泊業は人が移動し、人が集まることで価値を生み出し、産業としての規模も増大してきました。宿泊、料飲、宴会などに代表される商品はどれを取ってもこの条件によって成り立っています。余暇の増大やグローバル化は、こうした条件を拡大し、宿泊業も規模を拡大してきています。この度のコロナウイルスの感染拡大は、宿泊業に大きな打撃を与えましたが、私たちが変わっていく大きな機会も与えてくれたと思います。このプログラムではより生産性の高い、質の高い従業員を必要とする宿泊業にとって、経営上必要な知識を提供してくれています。是非、プログラムに参加をして次世代の観光業の担い手となって貰えればと思います。

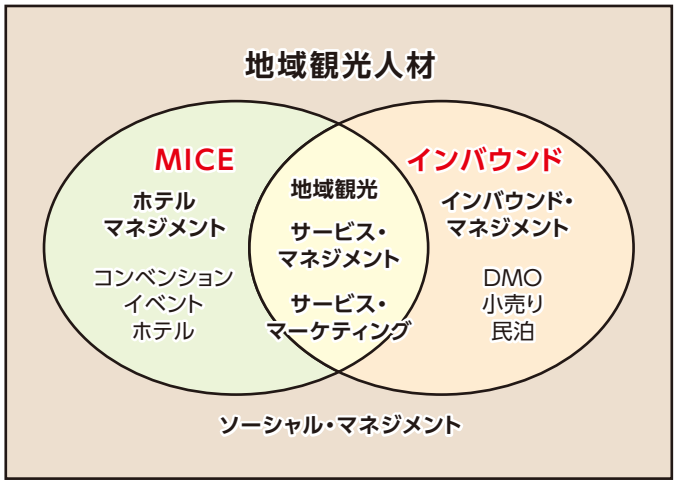
MICE・地方観光人材育成プログラム実行委員会

本プログラムでは、関西学院大学ビジネススクールが提供する経営マネジメント理論と産官学連携のプログラム実行委員会のもと、ホスピタリティ産業界のMICE・インバウンド人材の育成に役立つカリキュラムを開発し、提供いたします。

委員長	山本 昭二	関西学院大学専門職大学院　経営戦略研究科　教授
副委員長	玉田 俊平太	関西学院大学専門職大学院　経営戦略研究科　研究科長・教授
委員	国枝よしみ	大阪成蹊大学　副学長　国際観光学部長　英語教育センター長　教授
委員	松田 充史	大阪成蹊大学　国際観光学部国際観光学科長　教授
委員	田中 祥司	摂南大学　経営学部　経営学科　准教授
委員	原 辰徳	東京大学大学院 工学系研究科　人工物工学研究センター　准教授 兼 東京大学　総括プロジェクト機構　特任准教授
委員	境田 司	株式会社神戸ポートピアホテル　執行役員　副総支配人　事業本部長 兼 開発室長
委員	西尾 智子	株式会社神戸ポートピアホテル　執行役員　営業本部長補佐 兼 MICE統括
委員	竹中 毅	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター　サービス価値拡張研究チーム長
委員	出石 直史	神戸市経済観光局　観光MICE担当部長
委員	熊谷 將	株式会社大丸松坂屋百貨店　大丸　大阪・心斎橋店　営業推進部長
委員	徳光 孝信	株式会社花外楼　代表取締役
委員	山中 英彦	みずほトラベルサービス株式会社　代表取締役社長 関西学院同窓会KGツーリズム新月会　幹事長 兼 事務局長
委員	松田 健	日本コンベンションサービス株式会社　執行役員
委員	佐藤 彰展	株式会社JTB　京都仕入販売センター　仕入営業課長
委員	伊藤 政隆	株式会社JTBコミュニケーションデザイン　エリアマネジメント部　交流推進第二事業局　局長
委員	橋本 正権	株式会社王宮　道頓堀ホテル　代表取締役
委員	南方 幸蔵	株式会社ロイヤルホテル　リーガロイヤルホテル　セールス統括部　MICE担当支配人 2025 大阪・関西万博推進担当
委員	宇野 彰洋	株式会社Plan・Do・See　オリエンタルホテル　総支配人
委員	北原 信輔	一般社団法人全日本ホテル連盟　理事　近畿支部長 兼 会員増強委員長

2023年7月1日現在

本プログラムの特徴と受講のメリット



本プログラムは、サービス・マーケティング、サービス・マネジメントなどの専門的な科目群を基礎にしながら、地域観光に役立つ人材の育成を目指しています。特に、コンベンション型のホテルの運営を通してＭＩＣＥに精通した人材を、インバウンド顧客に特化したホテルの運営や小売りの事例などを基にして、実践的なインバウンド・マネジメントに対応する人材を育成します。将来の地域観光を担うマネジメント層の育成を目指したカリキュラムになっています。

（1）「ホテルマネジメント」
（2）「インバウンド・マネジメント」
（3）「サービス・マネジメント」
（4）「地域観光」

の各科目が本プログラムで開発しましたオリジナルの科目となります。

1 ケーススタディを用いた授業で実践的マネジメントが学べます。

座学だけでなく、各プログラムの随所にコンベンションホテルとしてのMICEへの取り組みやDMOの取り組みといった、リアルケーススタディを取り入れた実用性の高いカリキュラムを提供します。

2 本学ビジネススクールと連動したカリキュラムで正規学生と一緒に学べます。

発展科目は本学ビジネススクールの正規科目ですので、本学ビジネススクールの学生と一緒に受講できることで、白熱したディスカッションを通じて多角的に物事を捉える機会を提供します。

3 遠方の方も受講が可能なオンライン授業やハイフレックス型授業を導入。

授業は、オンライン型や科目によってはハイフレックス型（対面授業とオンライン授業の同時進行）を導入しています。ハイフレックス型授業は、受講者が各回で受講形態を選択することもできます。

受講にあたって

本プログラムは、「履修証明書取得コース」と「非履修証明書取得コース」からなり、MICE・地方観光マネジメントをじっくり学びたい方、近い将来にＭＢＡを取得されたい方、ウィズコロナ社会における観光・宿泊・飲食関連業の新しいビジネスモデル構築のヒントを得たい方等、様々な受講ニーズに対応できるように、受講者が自由に受講科目を選択し、１科目からでも学べる受講システムとなっています。

■MICE・地方観光マネジメントを体系的に学びたい方（履修証明書取得コース）

一定の条件を満たした場合は、本学より履修証明書を発行します。

【履修証明書発行のメリット】

履歴書、経歴書等に「関西学院大学 ＭＩＣＥ・地方観光人材育成プログラム履修証明プログラム修了」と記載することができます。

【履修証明書発行の条件】

履修証明書の発行には、次の（1）（2）の両方の条件を満たすことが必要になります。

（1）本プログラム所定の課程において総授業時間数が129時間以上であること
（2）基礎科目と発展科目・先端科目をバランスよく履修いただくために
・基礎科目は、４科目のなかから２科目以上を履修
・発展科目と先端科目の９科目のなかから5科目以上履修で、「ホテルマネジメント」「地域観光」「インバウンド・マネジメント」「サービス・マネジメント」の４科目から少なくとも２科目以上を履修

■受講科目を絞って学びたい方（非履修証明書取得コース）

本コースでは、選択必修科目である「サービス・マネジメント」「ホテルマネジメント」「地域観光」「インバウンド・マネジメント」のうち最低１科目を履修していただきますが、その他は自由に科目を組み合わせて受講することができます。受講目的やニーズに合わせて効率よく学びたい方にお勧めです。

★関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科（ビジネススクール）でMBAを取得されたい方

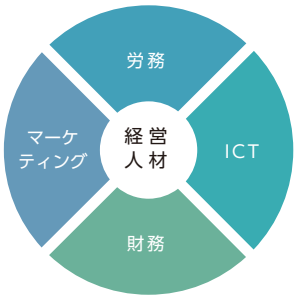
ＭＢＡ取得には、４４単位の修得が必要です。本プログラムの発展科目は、全てビジネススクールの正規科目ですので、修得した単位は入学後に学位取得に必要な単位にカウントされます。なお、基礎科目は、学位取得に必要な単位には算入されませんが、これまで経営関連科目を学んだことがない方には、併せて履修されることをお勧めします。

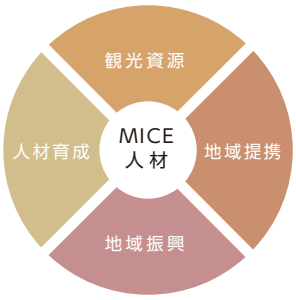
プログラム構成

サービス経営人材に求められる基本スキルとMICEや地域観光に関する知識の習得を目指し、地域の活性化やデスティネーション・マネジメント（観光資源の有効活用を促進するための手法）を体得いただくために、本プログラムは、基礎科目と発展科目、先端科目の3つに大別、構成されています。

	科目名	授業時間数
基礎科目	マーケティング 1,2	各 12時間
	経営戦略 1,2	
	会計・財務諸表	
	人的資源とキャリア開発	
発展科目	サービス・マーケティング	各 23時間20分
	サービス・マネジメント ※	
	ソーシャル・マネジメント	
	組織管理	
	管理会計	
	情報システム	
先端科目	ホテルマネジメント ※	
	地域観光 ※	
	インバウンド・マネジメント ※	

注1 ※は選択必修科目です。詳しくは「受講にあたって」をご参照ください。
注2 発展科目の履修は、1科目2単位の修得となります。





基礎科目は、原則として3時間（1講時90分の授業を2講時連続）の授業を4回（各12時間）します。
発展科目・先端科目は、原則として3時間20分（1講時100分の授業を2講時連続）の授業を7回（各23時間20分）実施します。

【基礎科目】
経営管理の視点に立ちながら日々の業務を行う上で最低限必要なベーシックな内容を習得できるように構成しています。
本学経営戦略講座の受講者や他の履修証明プログラムの受講者等と一緒に受講いただきます。

【発展科目】
本学経営戦略研究科のビジネススクールの正規科目であり、正規の学生と一緒に受講していただきます。

【先端科目】
「ホテル・観光に特化した事例研究」をとりあげ、より実践性の高い授業を実施します。受講者は、「MICE・地方観光人材育成プログラム」の受講者のみです。

講 師 陣

〈順不同・敬称略〉

講師名		担当科目
山本 昭二	関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科　教授	マーケティング1,2、　サービス・マーケティング
大内 章子	関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科　教授	人的資源とキャリア開発
谷村 真理	関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科　教授	会計・財務諸表
吉村 典久	関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科　教授	経営戦略1,2
丸橋 弘明	関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科　非常勤講師	情報システム
森藤ちひろ	関西学院大学 人間福祉学部社会起業学科　教授	ソーシャル・マネジメント
若林 直樹	京都大学経営管理大学院　教授	組織管理
国枝よしみ	大阪成蹊大学　副学長 国際観光学部長　英語教育センター長　教授	地域観光
松田 充史	大阪成蹊大学 国際観光学部国際観光学科長　教授	インバウンド・マネジメント
田中 祥司	摂南大学 経営学部 経営学科　准教授	地域観光
酒井 大策	大阪経済大学　経済学部　経済学科　准教授	管理会計
嶋田 敏	京都大学経営管理大学院　講師	サービス・マネジメント
境田 司	株式会社神戸ポートピアホテル 執行役員　副総支配人　事業本部長 兼 開発室長	ホテルマネジメント
西尾 智子	株式会社神戸ポートピアホテル 執行役員　営業本部長補佐 兼 MICE統括	ホテルマネジメント

※所属・役職は、2023年7月1日現在。講師は変更になる場合もありますので、最新の講師陣はホームページをご覧ください。

開講科目紹介

座学だけでなくケーススタディも多用し、理論を学ぶと共に実践力を身につけていただきます。

科目名	授業概要
マーケティング	現代のマーケティング戦略は、セグメンテーションとターゲティングを中心とした「選択と集中」戦略と、顧客とのリレーションシップを重視するリレーションシップ・マーケティングの二つの側面がある。この二つの戦略は補完的関係にある。本科目では、まずセグメンテーション、ターゲティングからポジショニングに至る道筋を平易に説明し、その後で顧客満足から顧客維持戦略に至る道筋を解説する。
経営戦略	「経営戦略」の立案に向けて必要な、基礎的な理論・フレームワークについて学ぶ。ただし、単に理論などを学ぶのではなく、これまでのビジネスの経験から知らず知らずのうちに自らが持っている（あるいは今後、持つかもしれない）“how to view”を見直す機会とする。自分の頭で考え、新たな“how to view”の獲得を目指す。また理論などの学びについても出来るだけ、事例紹介などを通じて具体的に論じていく。
会計・財務諸表	キャリアアップやマネジメントに欠かせない基本的な会計知識を学び、財務諸表を読めるようにすることで経営センスを研く。一般的な会計知識や財務諸表の仕組みに関する基本的知識の習得を第一の目標とし、その上で財務諸表から経営に必要な情報を抽出する手法や、財務諸表の活用方法を身につけていただく。
人的資源とキャリア開発	厳しい成果主義やリストラによる解雇等で従業員を脅かす人事労務管理。一方、育児・介護との両立支援、MBA取得、ボランティア参加などを認める人事労務管理。どちらが従業員は能力を発揮し高い業績を残せるのか。本科目では、従業員の動機づけや、高度な技能を習得し発揮してどうキャリアを築いていくのかなど、基本的な理論や概念を学習する。
サービス・マーケティング	本科目では受講生が、サービスの特質とサービスを提供する組織の抱える課題の理解からはじめて、顧客と従業員の相互作用によって起こるサービス生産までを理解し実践に活かす能力を習得することを目的とする。サービス・マーケティングはサービス業だけではなく製造企業も含めたサービスへの取り組みを理解する。
サービス・マネジメント※	本科目ではサービス・マネジメントの基礎的な内容を扱うことで、サービスの特性、サービスにおける顧客の位置づけなど、サービス事業のマネジメント上の課題についての理解を深める。そして、サービス・マネジメントの理解に必要な様々な関連概念・フレームワークの知識を習得する。
ソーシャル・マネジメント	ソーシャル・マネジメントには、行政と市民の協働、企業の社会化、より良い社会システムの構築のためのマネジメントの要素がある。本講義では、企業のCSRや社会貢献活動、営利・非営利組織の社会的役割について学ぶ。リアルな事例も用いて多様なステークホルダーがどのように社会の変化に対応していけばよいのかを議論し、ソーシャル・マネジメントの実践における課題とその解決策を考察する。
組織管理	本科目では、企業などでの組織の経営管理に関して、組織全体のメカニズムとそのマネジメントの基本的な考え方と代表例を理解する。ことに、トピックとしては、個人の集合体を超えた組織の特性、意思決定をめぐる組織制約、組織構造、組織形態とそのデザイン、ネットワーク組織、提携マネジメント、企業文化と改革、そして組織変革などにより理解を深める。
管理会計	民間企業でも非営利組織でも、管理会計の知識は組織のマネジメントに不可欠である。講義を通じて、受講生は意思決定や業績評価といった管理会計の基礎知識を理解することができるようになる。また受講生は、管理会計の優劣がビジネスの成功と失敗の要因であるという視点から、管理会計の実践的役立ちを概観できるようになる。
情報システム	企業における情報システムの諸機能を理解し、その重要性と可能性について学ぶ。変化の激しいビジネス環境下で情報システムに求められる柔軟性を達成するためには何が必要かを理解する。さらに、情報技術の中核となるプログラミングを実際に体得してもらいながら、近年のビッグデータの重要性を理解し、ビッグデータを支える諸技術についても学習する。
ホテルマネジメント※	本科目では、「コンベンションホテル」としてのＭＩＣＥの基本理解と新型コロナウィルスにより大きく変化したＭＩＣＥ業界の新たな価値を考える。
地域観光※	本講義は、地域観光を理解し、実践するための基盤となる理論を学びながら、プレゼンテーションなどを通じ、地方観光を担うための実践的な知識を身につけることを目的とする。
インバウンド・マネジメント※	本科目では、受講生がインバウンドマーケットとは何かについて理論的枠組みから理解するとともに、国や地域、さまざまな観光産業のケーススタディから、自らの課題解決の実践的手法を構築することを目的とする。

※選択必修科目です。

受講者の声

（敬称略・順不同）

株式会社グリーンズ
取締役人事本部長　鈴木 直子　（40歳代・女性）

三重県に本社をおくホテルチェーンで勤務をしています。地方観光人材、MICEと今後のサービス業界に欠かせない戦略をテーマとした本講座に興味を持ち受講を決めました。一般的なマネジメントスキル講座と異なり、サービスをアカデミックの側面から体系的に学ぶ連続講座というのは非常に珍しく、本コースの大きな特徴だと思います。講座の中でも印象に残っているのは、『サービス・マネジメント』です。ホスピタリティというどちらかといえば感性が重視される分野において、工学的なアプローチでの学びは非常に新鮮で、新しい視点を頂けました。現在、弊社ホテルチェーンの勤務シフト改革に着手しておりますが、使用したテキストを活用しながらプロジェクトを進行しています。実践にも使える講座だと思います。

株式会社日本旅行
九州法人営業部 営業リーダー　松村 英生　（50歳代・男性）

私は旅行会社で働いています。旅行業の枠に留まらず、観光業という大きな枠で仕事をすることを目標にしています。最初にこのプログラムを受講しようと思った動機は、仕事上で関連がある分野（先端科目の「地域観光」、「インバウンド・マネジメント」、「サービス・マネジメント」）が、本講座にあったからです。受講すれば、実務事例をわかりやすい解説で理解でき、その中にアカデミックな理論をもとにして、新しい実践方法を学べるので、仕事に幅を持つことができます。また受講する中で、経営の基礎知識が必要と感じて、今は基礎科目のマーケティングや会計・財務諸表等も学んでいます。私とは異なるバックグランドの受講生と議論をして、発表資料作成を経験することは、とても有益で楽しく刺激的です。

旅行代理店
支店アシスタントマネージャー　（50歳代・男性）

仕事は旅行業をしておりますが地域観光等については専門的に携わったことが無く今回は良い機会だと思い受講させていただきました。現在、観光業は大きな変革を求められています。そしてコロナ禍は時間を大きく進ませました。今、「インバウンド・マネジメント」の講義を受けさせていただいております。東北地方在住の私としては関西の方々と席を並べさていただき授業を受けるのは新鮮な気持ちになるのと同時に観光のとらえ方の違いも実感させられました。インバウンドも東北地方はまだまだだと思わされました。言い換えればこれからだと捕らえることもできます。私は旅行会社に勤務している傍ら農業もしております。先日の講義にあったように東北地方の農村部はあと30年もすれば誰もいなくなり消滅の危機です。農村部復興の一つの手段として観光業があると思いますので今回のプログラムを学ぶことにより自分自身のスキルを上げ、観光業から地域を盛り上げるお手伝いを出来ればと考えております。

キャセイパシフィック航空会社
日本支社 カスタマーセールスセンター部長　吉田 忍　（50歳代・女性）

香港に本社を置く航空会社に勤務しています。主にアウトバウンドの販売に携わってきましたが自分自身の住む日本経済の成長を望むにはインバウンドの重要性を痛感していました。その中で本プログラムの存在を知りました。プログラムの中ではインバウンド観光関連の講義はもちろんのこと、経営、マーケティング、会計などの基礎科目を学べることも魅力でした。東京在住ですが、ほとんどの講義がオンラインで受講できるのも受講を決めた理由の一つです。講義は一方的ではなく双方向で進められます。自分自身の考えを述べたり他受講生の考えを聞いたり、と刺激的で楽しんでいます。先端科目においては現場にいらっしゃる方が講師であったりゲストスピーカーであったり、と具体的で実践的な話を聴けるのも有益に感じています。

株式会社大丸松坂屋百貨店
大丸心斎橋店 営業推進部スタッフ インバウンド担当　姜　超　（30歳代・女性）

大丸心斎橋店で勤務しています。インバウンド関連の仕事をしていますので、「インバウンド・マネジメント」講座を通じ、インバウンドについて体系的に学びたいと思い、受講を決めました。実際に講義を受けてみると、大変驚いたのはインバウンドだけではなく、様々な分野で活躍されている受講生がいらっしゃることです。毎回の講義は様々な視点から熱い議論が展開され、今までまったく意識しなかった課題を皆さんと議論しているうちに気づき、多大な示唆を与えてくれる講義です。なお、インバウンド分野の大ベテランたちはゲストとして登壇し、インバウンド理論はもちろん、実例も交えながら楽しい且つ有益な講義をされています。実戦力に繋がるような講義内容ですので、受講して本当によかったと思います。

民間シンクタンク
客員研究員 キャリアコンサルタント　（50歳代・女性）

私は、現在エアラインやホスピタリティに関する講義を担当しています。ここ数年、航空業界もコロナにより大きな影響を受け、非接触、ＤＸ化が急速に進み、本来のサービスに対する考え方やホスピタリティの在り方を考えさせられる様になりました。その様な時、こちらのプログラムを知り観光業界をアカデミックな視点から考え、現状や他業界の実務事例を学ぶ事で、今後顧客が求めるサービスのヒントを掴みたいと思い受講しました。実際「サービス・マネジメント」では、工学的なアプローチでサービスを理論的に捉え、DX化が広がる中での「標準化と個人化」という考え方は、サービス提供において新たな視点を頂く事ができました。今後残りの先端科目やマーケティング等の受講を通じ、多くの学びを得る機会にしたいと思っています。

エクスポート・ジャパン株式会社
経営支援部長　福島 妙　（40歳代・女性）

海外Webマーケティング、japan-guide.com国内総代理店業務などを行う会社に勤務しています。あるプロジェクトで地域の観光資源に接する機会に恵まれたことから、観光について体系的に学びたいと考えるようになり、本プログラムを受講することに決めました。「ホテルマネジメント」では神戸、京都、海外などのMICEに関する取組、PCOの事業内容など学び、短期間でMICEに関する知識を身につけることができました。また、このプログラムで最も貴重な体験は多様な背景を持つ同期生、講師の方々との出会いです。講義では頭を悩ませることもありますが、同期生とディスカッション、プレゼンを共に経験することで、学生時代には気づけなかった「学び」の楽しさを知れたことは、自分自身にとって大きな発見でした。

株式会社フェニックス商会
代表取締役　松本由美子　（50歳代・女性）

私は貿易会社を経営しており、観光業は全くの素人です。新商材を輸出するにあたり、その先にインバウンド事業への参入を見据え受講を決意。初めは今じゃなくても、という思いもありましたが説明会で内容を聞き、気づいたらホテル・観光の先端科目4科目から3科目を選択、授業はリアルタイムの内容で面白く、在籍中の今は残り1科目も追加受講したくなっています。ビジネスはあらゆる方向に可能性が横たわっていると思うのですが、今回観光業をMICEでTOPのホテルを通して、インバウンドマネジメントの観点から、地域観光の切り口から学ぶことで、「観光」に関するパズルのピース【キーワード】を自分の中に増やし、同時に基礎・発展科目で経営の知識、マーケティングの手法を身に付け、その知識や手法を使ってパズルのピースをどうやって組み合わせビジネスの可能性を広げていくか、また自社の商売にどう結び付けていくか、と毎日考えてばかりいます！観光と貿易、一瞬全くの異業種に見えますが、両者とも国境を越えるビジネスという共通点があり、双方向に応用できることに気づき、受講を「今」決めて良かったと思っています。

ANAインターコンチネンタルホテル東京
宿泊部ベルサービス、アシスタントチーフ　汪 思沛（30歳代・男性）

MICE地方観光人材育成プログラムを受講したきっかけは、元々大学時代のときは観光学科だったが、マネジメントに関する知識や経験などあまり身につけていなかった。現職の仕事もホテルで7年間勤めている。将来、ホテルの管理職になれば、経営能力を身に付けるのは非常に重要だと考えている。MICEはホテル概論や観光概論などが学べる授業であるが、もちろん観光科目のみならず、経営管理科目も含んでいる。例えば、マーケティング、組織管理などの理論的内容が中心に構成されているコースである。レポートはほぼ毎週提出が必要なので、やや大変そうな感じがするが、毎回プレゼンテーションを発表した際に、先生と生徒たちと意見交換をし、他の業種の方より貴重な意見は頂くのは私にとって非常に大切な宝物である。もちろんこれは私がMICEコースを受講した理由の一つである。

観光協会
（30歳代・男性）

私は地方部の観光協会に勤務し、地域観光全般の企画運営を担当しています。私がこのプログラムを受講しようと思った動機は、これまで観光学や経営学の教育を受けたことがないため、観光関連の体系的な知識を得たいと考えたからです。各地域がインバウンドを含めた観光客を取り込もうとする中、正確な知識に基づいた戦略を策定することが重要です。このプログラムでは、「地域観光」や「インバウンド・マネジメント」などの観光に特化した最先端の知識が学べる一方、マーケティングや会計・財務諸表などに関する基礎知識から高度な知識を吸収することができます。また、地方在住者にとって、オンラインで受講できることは魅力的でした。地方の観光経営を担う方には、受講をお勧めできるプログラムだと思います。

※「受講者の声」の勤務先、所属・役職および受講環境は、受講当時のものです。

開講スケジュール

■開講期間　2023年10月～2025年3月修了（18か月　最大21か月）

科　目		開催日・時　（2023年10月～ 2024年3月）			補　講
基礎科目	マーケティング2	木曜	18:30 ～ 21:30	10/19、　10/26、　11/2、　11/9	
	経営戦略2	日曜	9:30 ～ 12:30 13:30 ～ 16:30	11/5、11/19	
	人的資源とキャリア開発	土曜	13:30 ～ 16:30	11/25、　12/2、　12/9、　12/16	
	マーケティング1	2024年 6 月　開講予定		2024年2月頃に決定	
	経営戦略1	2024年 7 月　開講予定			
	会計・財務諸表	2024年 8 月　開講予定			
発展科目	ソーシャル・マネジメント	2024年 4 月　開講予定			
	管理会計	2024年 4 月　開講予定			
	情報システム	2024年 4 月　開講予定			
	サービス・マーケティング	2024年10月　開講予定			
	組織管理	2024年10月　開講予定			
	サービス・マネジメント	2024年11月　開講予定			
先端科目	ホテルマネジメント	火曜	18:30 ～ 21:50	2024 年 2/6、2/13、2/20、2/27、3/5、3/12、3/19	3/26
	インバウンド・マネジメント	2024年度　開講予定			
	地域観光				

※開催日時が未定の科目はあくまで予定です。開講月が変更になる可能性もありますので、詳細は決まり次第ホームページでお知らせします。
※「マーケティング」「経営戦略」は年2回開講しますので、「マーケティング2」「経営戦略2」で都合がつかない方は2024年度開催の「マーケティング1」「経営戦略1」で受講できます。

募集要項

■出願資格
- 学士の学位を有する者もしくは同等の学力を有する者で、原則として同一の企業・官公庁・教育研究機関等で実務経験が3年以上の方
- 高等学校卒業者で実務経験が7年以上の方
- 専修・専門学校、短期大学卒業者で実務経験が5年以上の方

※上記いずれかに該当する方。但し、実務経験については業界・業種・職種を問いません。
※なお、高校、専修・専門学校、短大卒業で受講を希望される場合は、出願前に個別の出願資格審査が必要になりますので、別途申請書類を提出していただきます。該当者は、本プログラム事務局までお問い合せください。

■受講対象者
◎ホテルの経営者、支配人、マネージャー
◎ホテルの経営企画部門、事業開発・マーケティング部門、営業部門、広報部門、人事部門に従事されている方
◎観光に関連する企業・組織にお勤めの方、DMO、旅行代理店、外食産業、物販などに従事されている方
◎各種ホスピタリティ産業の経営者、経営企画部門、事業開発、マーケティング部門、営業部門、広報部門、人事部門等に従事されている方
◎地域開発・不動産の開発・売買等に従事されている方
◎MICEや地域観光に関心のある方

■受　講　料　基礎科目 1科目 22,000円　　発展科目・先端科目 1科目 80,000円

■受講者定員　各科目　15名程度

受講方法

本プログラムの受講は、出願制です。「受講申請」「出願」と2段階の手続きを踏んでいただきます。

■受講申請

受講希望の方は、下記URLまたはQRコードの「受講申請」ページより「受講希望フォーム」に入力してください。
受講申請ページ　https://iba.kwansei.ac.jp/mice/requirements/form/

受講申請

■出願

オンライン出願となります。詳細は受講申請された方及びプログラム説明会に参加された方に個別にご案内いたします。

開講場所（対面授業実施の場合）

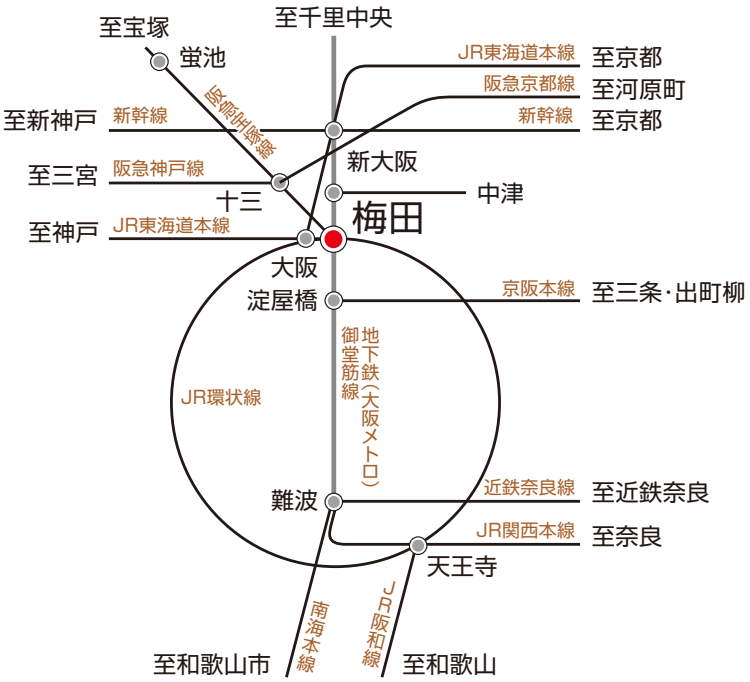
関西学院大学　大阪梅田キャンパス

〒530-0013　大阪市北区茶屋町19−19　アプローズタワー10階・14階
大阪梅田キャンパス事務室（14階）　TEL：06−6485−5611　FAX：06−6485−5612

- 阪急「大阪梅田駅」茶屋町口改札口より北へ徒歩５分
- ＪＲ「大阪駅」御堂筋出口から徒歩１０分
- 大阪メトロ御堂筋線「梅田駅」から徒歩７分、「中津駅」から徒歩４分

［最寄り施設］

ホテル阪急インターナショナル、梅田芸術劇場（いずれもアプローズタワー内施設）



プログラムの詳細・お問い合わせ先

プログラムHP↑

関西学院大学専門職大学院　経営戦略研究科
MICE・地方観光人材育成プログラム事務局

〒662-8501　兵庫県西宮市上ケ原一番町1-155
TEL：0798-54-6342　E-mail：tourism_mice@kwansei.ac.jp
URL：https://iba.kwansei.ac.jp/mice/

関学観光人材　検索

お問い合わせ↑